



生ごみ菌ちゃん通信

発行元：生ごみリサイクルサポーター連絡会・日野市ごみゼロ推進課

No. 1

発行日

2012年9月30日

連絡先

日野市ごみゼロ推進課

042-581-0444

私たち、生ごみリサイクルサポーターは、日野市と協働して、可燃ごみの約半分を占める生ごみを減らしていこうと、2か月に1回、連絡会を開きながら、生ごみを資源として有効活用することについて検討しています。最近では、家庭内で手軽に生ごみを処理・リサイクルができる段ボールコンポストを昨年9月に開発しました。生ごみリサイクルする方が増えるよう、段ボールコンポストを宣伝したり、使用している方の定着化を図ったりすることに力を入れています。

このたび、私たちの活動を知ってもらい、生ごみリサイクルの輪がさらに広がるように、活動通信を発行することとしました。生ごみは、微生物に分解してもらえれば土に戻り、元気な野菜を作ることができます。微生物を「菌ちゃん」と呼んで、身近に感じてもらうよう、『生ごみ菌ちゃん通信』と名付けました。

この通信で段ボールコンポストや生ごみリサイクルの活動に興味を持っていただけたらうれしいです。

サポーター募集中

サポーターに登録して、私たちと一緒に活動してみませんか！！現在、約20名で活動しています。サポーターの活動状況は裏面をごらんください。

毎月1回サポーター連絡会と、段ボールコンポストを使用している方々の情報交換の場、“交流サロン”を交互に開催しています。お待ちしております！

場所：ひの市民活動支援センター
(日野 1369 の 27 多摩都市モノレール甲州街道駅徒歩5分)

時間：13時30分～15時00分

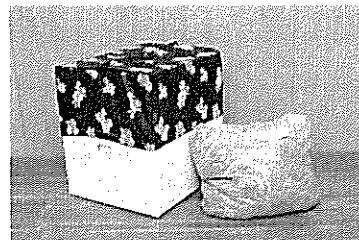
期日：毎月第4金曜日

連絡会奇数月、交流サロン偶数月

連絡先：日野市ごみゼロ推進課
042-581-0444



◆はじめるなら、今の季節がベスト◆ 「段ボールコンポスト」とは



段ボールコンポストは、ご家庭の生ごみをたい肥にできるキットです。組み立てた段ボールと虫除け用の布カバー、生ごみを分解させる竹パウダーの3点セット。

段ボールに竹パウダーをあけて、その中に生ごみを混ぜ込むと、竹に住む微生物(菌ちゃん)の力で生ごみは分解されます。

最初の3か月間、生ごみを毎日入れ続け、分解が遅くなってきたら、生ごみの投入を止めて寝かせます。2か月間寝かせたら、完熟たい肥のできあがりです。

トマト、キュウリ、ナス、ピーマンといった夏野菜の苗の植え付けは、5月初旬くらいです。今から段ボールコンポストを使い始めれば、ちょうど来年の夏野菜の土づくりのときに、たい肥ができあがります。

すぐにでも、ご家庭の生ごみでたい肥づくりを始めませんか！

□□段ボールコンポスト セット□□
セット価格(税込み) 1,250円
*市補助金適用後の価格

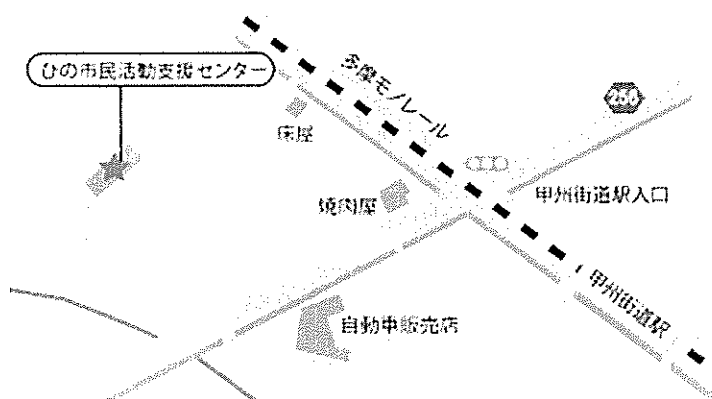
<申し込み先>

第2すすかけの家

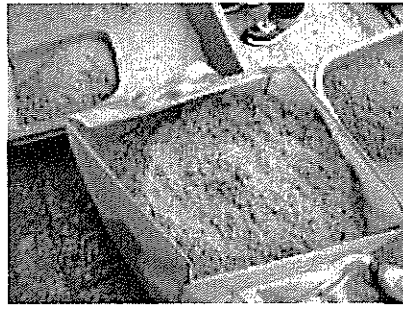
日野市南平4-11-22

TEL 080-3175-1144

ひの市民活動支援センター



生ごみリサイクルサポーター の活動紹介



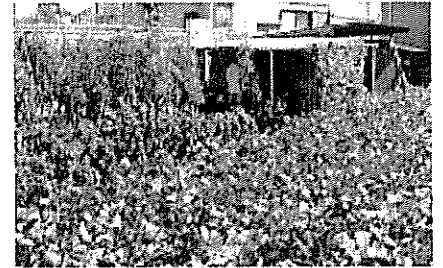
7月 植織機という機械で、生竹をつぶして繊維粉末にするのがミン

11日(水)・・・「林庭園設計事務所 (八王子市横川町)」
にて竹パウダーの製造見学

27日(金)・・・第22回生ごみリサイクルサポーター
連絡会



生ごみを畑に直接投入して無農薬野菜を作っている「せせらぎ農園」で、野菜の様子を見学しました



8月

24日(金)・・・交流サロンで「せせらぎ農園」(新井)を見学

9月

2日(日)・・・平山二丁目自治会にて

段ボールコンポストの講習会

28日(金)・・・第23回生ごみリサイクルサポーター
連絡会

秘伝・段ボールコンポストのコツ

段ボールコンポスト歴

中西 昌子さん(日野本町) 3年

【置いている場所】 屋外(雨のあたらない場所)

【生ごみを入れる前のコツ】

- ★生ごみ(野菜くず、残飯など)を小さく切れば早く分解して生ごみのかたちがなくなります。
- ★生ごみ投入量の目安(1日/約500g)をオーバーしないようにしています。
- ★生ごみ投入前に段ボールの中をよくかき混ぜ竹パウダーの状態を均一の条件にしています。
- ★生ごみを竹パウダーにまぶすように混ぜています。

【自分だけの工夫・コツ】

熟成期(約2カ月間)の時に発泡スチロール箱に入れかえて、上に新聞紙をのせふたをして、4~5日に1度かき混ぜています。

【段ボールコンポストの良いこと・大変なこと】

大変といえば、夏は虫がよりやすく、投入時に蚊にさされることです。しかしながら、化学肥料・農薬散布などで地力が落ちている時代、家庭菜園をやるなら、生ごみたい肥だと思っています。なぜなら、自分の家庭の野菜くず、残飯で作った生ごみたい肥は最も安全であり、たい肥としての各種成分に富んでいて最高だと思えるからです。

10月のお知らせ



- 講演会『家庭でつくる生ごみ堆肥~生ごみをへらして元気なやさいをつくりましょう!』

講師 加藤哲郎さん(元金沢学院短期大学食物栄養学科教授)

10月14日(日)

場所:日野市市民の森ふれあいホール
2階コミュニティルーム

時間:14時00分~16時00分

- 交流サロン

10月26日(金)

場所:ひの市民活動支援センター

時間:13時30分~15時00分

中西さん宅の生ごみたい肥で作ったノラボウ(3月)

